

令和8年度がスタートして早2週間が経過しましたが、依然、新年度事業の準備に大わらわの状況を脱しえませんが、当センターに限らず、世間一般が何かと多忙な今日この頃は、二十四節気では清明末候の虹始見（にじはじめてあらわる）に当たります。清明とは、大気が清く澄み渡り、自然がさらに活気を帯びる時期を言い表しています。そして、清明の終盤は、乾燥した冬場には見ることができない雨上がりの空にかかる虹が見え始める頃合いを虹始見としています。

さて、虹は音符の工に意符の虫を組み合わせた漢字で、中国では、虹の他にも蛭げいや蛭てい、蝮とうが使われています。いずれも蛇の形象である虫へんが当てられています。それは古代中国では虹が蛇のような生き物と信じられていたためです。いささか不気味さを感じますが、「虹の」という形容は幸福感の枕詞のように使われています。虹のむこうに幸せがある、虹のたもとには宝物が埋まっているという虹伝説が語り継がれています。しかし、虹は光と水が織りなすイリュージョンですので、向こう側にも、たもとにも辿りつくことはできません。その探求こそが青い鳥のように幸福や宝物を既得していることの気づきであり、虹伝説の奥深いところかもしれません。

この時期に就退職、入学や卒業といった人生の転機を迎えられた方も多いかと思います。これまでの文脈とは相反しますが、そのような方々には、虹のような目標に向かってリスタートされますよう祈念いたします。

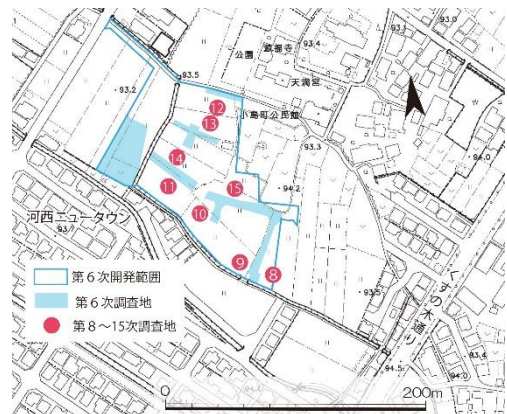
それでは、2月以降の埋蔵文化財センターの動静をお伝えいたします。

発掘調査だより

阿比留遺跡 第8～15次調査

昨年、古墳の周濠から木製樹物が出土し、一躍注目を集めた阿比留遺跡第6次調査地内での第8～15次調査（以下、今回調査）を本年1月14日から3月13日の期間で実施しました。

第6次調査（以下、前調査）は約2,900㎡の宅地造成地の道路箇所を対象に実施した調査で、今回の8地点の調査は位置図のとおり、宅地区画のうち住宅建築箇所を対象に実施しました。各調査の成果は表のとおりで、調査毎にその概要を報告します。



第8～15次調査位置図

【8次調査】調査地（位置図は次頁に掲載）は、前調査区域の東南隅に位置します。ここからは溝、ピットを検出しましたが、前調査成果を深化させるような成果は上がっていません。

【9次調査】前調査区7の西側に隣接する宅地を調査しました。ここでは、前調査で検出した古墳SX-2外周濠と想定できる遺構から人物埴輪と動物埴輪、円筒埴輪が出土しました。人物埴輪は頭部と体部の一部、動物埴輪は四肢と胴部片が出土しています。

前調査では、SX-2からは埴輪と石見型木製品や笠形、盾形木製品などの木製樹物が出土し、一方のSX-1は埴輪だけの出土にとどまっていたが、今回は石見型木製品と笠形木製品が出土したことによって、SX-1、2ともに木製樹物と埴輪が併用されていたことを確認することができました。

【10次調査】調査地は前調査区5の西側に隣接する宅地で、検出した溝からは埴輪と完形の須恵器壺などの土器が出土しています。

この溝とSX-2との関係を現在精査しています。

【11次調査】前調査区3の南側宅地で実施した調査で、土坑と前調査SD-4と同一遺構と考えられる溝を検出しています。溝からは土器と槽などの木製品が出土しました。

【12次調査】調査地は前調査区1の南側の宅地で、ここからは溝、ピットを検出しました。溝からは弥生時代中期の土器が出土しています。

【13次調査】12次調査地南側宅地の調査で、幅約5m、深さ50cmの溝を検出しましたが、前調査検出のSX-1周濠と想定できます。ここからは、埴輪と石見型木製品や笠形木製品などの木製品が出土しています。

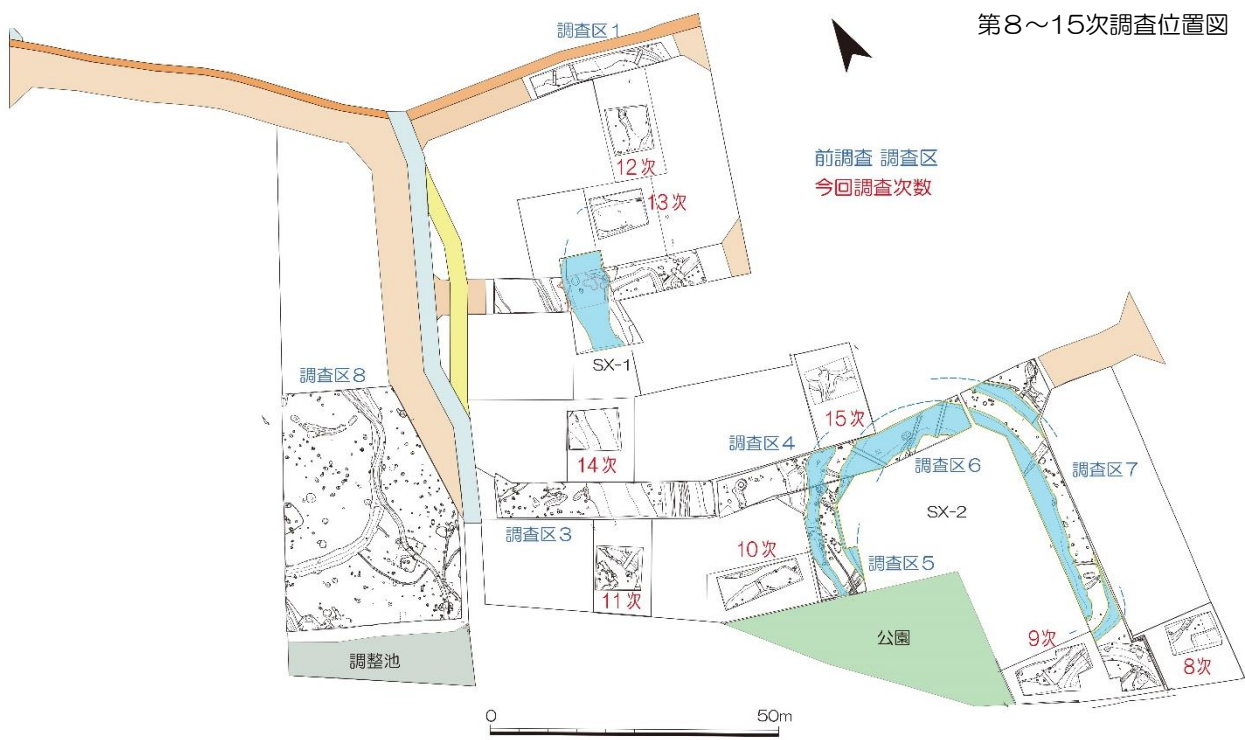
【14次調査】14次調査は、前調査区3を挟んで11次調査区の北側に位置する宅地で実施しました。南北方向に伸びる幅約5mの溝SD-1を検出し、埴輪や木製品、滑石製有孔円板、土師器壺、高坏や初期須恵器、黒色土器などの遺物が出土しました。

【15次調査】SX-2の周濠を検出した前調査区4～6の北側宅地の調査で、溝を検出しました。ここからは灰釉、緑釉陶器などが出土しています。

以上が調査成果の概要です。今後、検出遺構や出土遺物の精査を行っていく計画です。そして、前調査成果を踏まえた上で、今回の調査成果の詳細を報告したいと考えています。(沖田)

第8～15次調査検出遺構・出土遺物一覧表

調査地	主な検出遺構	出土遺物
8次調査	溝、ピット	
9次調査	SX-2外周濠、溝	円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪他
10次調査	溝、ピット	埴輪、土器
11次調査	溝	土器、木器(槽)
12次調査	溝、ピット	土器
13次調査	SX-1周濠?	石見型木製品、笠形木製品、円筒埴輪
14次調査	溝	土師器壺、高坏、初期須恵器、黒色土器埴輪、滑石製有孔円板、四脚付槽
15次調査	溝	灰釉陶器、緑釉陶器、土師器、埴輪



令和7年度の発掘調査について

令和7年度は35件の発掘調査を実施しました。その内訳は、個人住宅建築に係る調査が19件、工場建設や共同住宅などの民間開発に伴う調査が14を数え、残りの2件は伊勢遺跡史跡指定地近隣地の遺跡の様態を把握するための確認調査になります。

なお、35に記載する笠原南遺跡の調査は【公財】滋賀県文化財保護協会が実施しています。

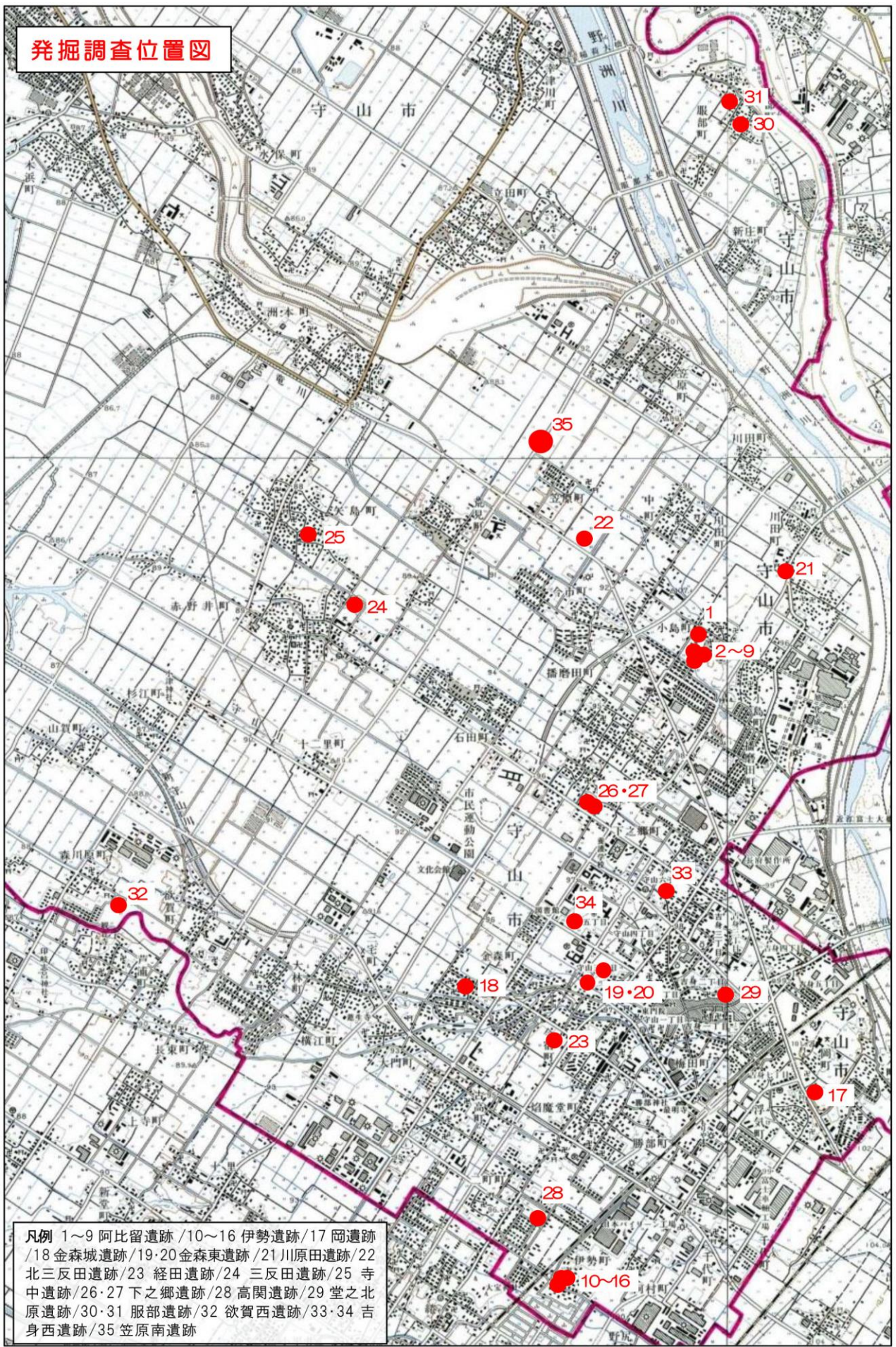
令和7年度 発掘調査一覧表

(遺跡毎、着手順、開発面積は小数点以下四捨五入調査面積は概数・㎡)

No.	遺跡名(調査回数)	調査所在地	調査面積/ 開発面積(㎡)	調査期間	調査種別	調査原因	担当	乙真掲載
1	阿比留遺跡 7次	小島町字堂ノ後	22/578	2025.7.10	補助	個人住宅	鎌田	260号
2	阿比留遺跡 8次	小島町字塚生	50/165	2026.1.14~15	受託	分譲住宅	沖田	264号
3	阿比留遺跡 9次	小島町字塚生	70/165	2026.1.20~2.2	受託	分譲住宅	沖田	264号
4	阿比留遺跡 10次	小島町字塚生	70/165	2026.2.3~2.6	受託	分譲住宅	沖田	264号
5	阿比留遺跡 11次	小島町字塚生	70/165	2026.2.9~2.13	受託	分譲住宅	沖田	264号
6	阿比留遺跡 12次	小島町字塚生	70/165	2026.2.16~2.19	受託	分譲住宅	沖田	264号
7	阿比留遺跡 13次	小島町字塚生	65/165	2026.2.20~2.27	受託	分譲住宅	沖田	264号
8	阿比留遺跡 14次	小島町字塚生	65/165	2026.3.2~3.6	受託	分譲住宅	沖田	264号
9	阿比留遺跡 15次	小島町字塚生	65/165	2026.3.9~3.13	受託	分譲住宅	沖田	264号
10	伊勢遺跡 142次	阿村町字上大洲	148/4580	2025.5.8~6.5	受託	工場増設	畑本	259号
11	伊勢遺跡 143次	伊勢町字溝畑	540/26,400	2025.10.1~12.27	確認	確認調査	大東	
12	伊勢遺跡 144次	伊勢町字伊勢里	24/153	2025.11.17	補助	個人住宅	鎌田	
13	伊勢遺跡 145次	伊勢町字伊勢里	22/150	2026.1.5	補助	個人住宅	鎌田	
14	伊勢遺跡 146次	伊勢町字伊勢里	19/150	2026.1.7	補助	個人住宅	鎌田	
15	伊勢遺跡 147次	伊勢町字伊勢里	19/143	2026.1.14	補助	個人住宅	鎌田	
16	伊勢遺跡 148次	阿村町字下番田	35/472	2026.2.12~24	確認	確認調査	大東	
17	岡遺跡 8次	岡町字寺前	300/1,035	2025.8.25~10.22	受託	共同住宅	沖田	261号 262号
18	金森城遺跡 3次	金森町字東出	11/156	2025.7.18	補助	個人住宅	鎌田	
19	金森東遺跡 66次	守山三丁目字大將軍	59/375	2025.9.18	補助	個人住宅	鎌田	
20	金森東遺跡 67次	守山三丁目字太田	28/191	2026.2.26	補助	個人住宅	鎌田	
21	川原田遺跡 4次	川田町字里ノ内	20/180	2026.3.11	補助	個人住宅	鎌田	
22	北三反田遺跡 1次	今市町字北三反田	880/9,000	2025.12.1~2026.1.22	受託	工場建設	畑本	263号
23	経田遺跡 19次	今宿四丁目字口津田	11/144	2025.8.8	補助	個人住宅	大東	
24	三反田遺跡 1次	矢島町字早稲前	25/241	2025.6.23	補助	個人住宅	鎌田	
25	寺中遺跡 29次	矢島町字屋敷田	27/249	2026.2.5	補助	個人住宅	鎌田	
26	下之郷遺跡 136次	下之郷二丁目字白雨	34/167	2025.5.20	補助	個人住宅	鎌田	
27	下之郷遺跡 137次	下之郷二丁目字白雨	21/173	2025.10.2	補助	個人住宅	鎌田	
28	高関遺跡 19次	伊勢町字阿ノ囷	300/2,640	2025.11.13~12.3	受託	共同住宅	沖田	263号
29	堂之北原遺跡 7次	吉身二丁目堂ノ北原	240/3629	2026.2.16~3.27	受託	宅地造成	畑本	264号
30	服部遺跡 10次	服部町字南出、字上大門	18/58	2025.4.30	補助	個人住宅	鎌田	
31	服部遺跡 11次	服部町字北出	5/438	2025.10.9	補助	個人住宅	鎌田	
32	欲賀西遺跡 35次	森川原町字村之内	57/278	2025.9.18	補助	個人住宅	鎌田	
33	吉身西遺跡 137次	守山六丁目字下横枕	46/324	2025.5.14	補助	個人住宅	鎌田	
34	吉身西遺跡 138次	守山五丁目字中岩賀	33/183	2025.6.6	補助	個人住宅	鎌田	260号
35	笠原南遺跡 3次	笠原町字永田外	39,600/40ha	2024.11.18~2027.3.31	受託	産業用地造成	※	262号

※35の笠原南遺跡の調査は公益財団法人滋賀県文化財保護協会による。調査面積は全体面積。

発掘調査位置図



凡例 1~9 阿比留遺跡 / 10~16 伊勢遺跡 / 17 岡遺跡 / 18 金森城遺跡 / 19・20 金森東遺跡 / 21 川原田遺跡 / 22 北三反田遺跡 / 23 経田遺跡 / 24 三反田遺跡 / 25 寺中遺跡 / 26・27 下之郷遺跡 / 28 高関遺跡 / 29 堂之北原遺跡 / 30・31 服部遺跡 / 32 欲賀西遺跡 / 33・34 吉身西遺跡 / 35 笠原南遺跡

堂ノ北原遺跡 第7次調査

市役所近くの、吉身二丁目字堂ノ北原において、宅地造成工事の申請があり、2月16日から3月27日まで発掘調査を実施しました。（調査地点は4頁掲載の発掘調査位置図29）

今回の調査は試掘調査の結果から、遺構が見つかったうちの道路予定地200㎡を対象としておこないました。

耕作土を取り除いた直下には、小石混じりの暗茶褐色粘土で覆われた包含層が30～60cmの厚さで堆積しており、ここからは多数の土師器や須恵器が検出されました。

調査区の北東寄りでは、黒褐色土のピットが並んで見付き、掘立柱建物2棟のほか、土坑や溝などを検出しました。

掘立柱建物跡のSB-1は1間×3間の規模で、ほぼ調査区に沿った方向にあり、SB-2はSB-1に比べ僅かに角度を変え、3間×1間以上の大きさで調査区外へ広がっています。遺物は土師器が少量出土しています。

土坑のほとんどは不定形を成し、深さもさまざまであるため性格は不明ですが、土師器の甕などが出土しています。全ての包含層を掘削したあとに掘立柱建物跡があった直下から緑釉陶器の壺や土師器、黒色土器壺などが出土しており、平安時代後半から鎌倉時代にかけての遺構とわかりました。

P-1、P-2は検出時にたくさんの土器が見えており、精査したところ、いわゆる「ての字」皿とわかりました。P-1では壁面に沿って横向きに「ての字」皿が10枚程度重ねられ、その周囲からも多数の皿が折り重なって出土しました。P-1より浅いP-2にも「ての字」皿が底を上にして数枚重ねられていました。この土器の下からは、皇朝十二銭の「乾元大寶」が一枚出土し平安時代中期の遺構と判明



P-1 土器出土状況写真



P-2土器出土状況写真

しました。

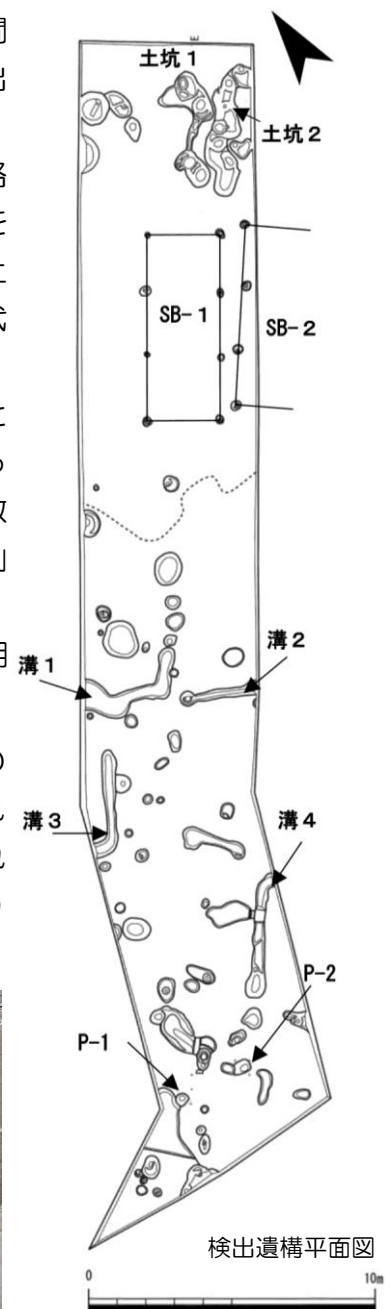
いずれのピットからも皿と壁との間に骨片らしき白いものが確認されたことから、火葬後の埋納に使用された土壌墓と考えられます。（畑本）



SB-1、2 検出写真



遺構検出風景写真



検出遺構平面図

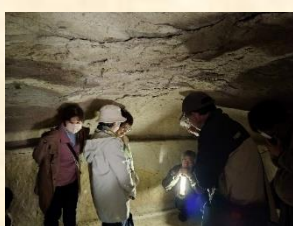
埋蔵文化財センター友の会 第5回見学会を開催しました！

3月6日（金）に、第5回見学会を開催しました。

今回は、大阪中河内地域の柏原市立資料館・史跡高井田横穴公園と八尾市立歴史民俗資料館、同じく八尾市の国史跡・心合寺山古墳を訪れました。



八尾市立歴史民俗資料館見学風景



史跡高井田横穴公園の横穴（左）・見学風景（右）



心合寺山古墳見学風景

楽しみのひとつ、昼食風景

見学先の柏原市立資料館の安村特別館長や八尾市立歴史民俗資料館の船曳館長、しおんじやま古墳学習館の福田館長三者三様の、何時間でも聞き入ってやまないお話によって中河内の古代史を学ぶことができました。ありがとうございました。

なお、今回の見学会をもちまして、令和7年度事業は終了いたしました。博物館や史跡、社寺仏閣めぐりが好きな方、大勢で行くと楽しいですよ！興味を持たれた方の入会をお待ちしています。

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Facebook からもご覧いただけます！



史のまち守山はコチラから
<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶
<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】冒頭に記しました虹伝説には、虹のたもとに埋まっている宝物の具体例として、金のニワトリだの、金のニワトリが鳴いて宝物の在り処を教えるのだと揺れがあります。明らかな金鶏伝説との錯綜を感じたと同時に、昭和の時代の出来事を想起しました。それは、前段に掲載している友の会で古墳を見学した折に、お一人は途上のバスの車内で、もうお一人は墳丘前で、異口同音に金の鶏が埋まっているのかとの質問があったことです。

金鶏伝説とは、古墳、あるいは城跡に金のニワトリが埋まっているという伝説で全国各地に流布しています。元旦にそのニワトリが鳴くという大筋の他に、節分に鳴いたり、埋蔵金の在り処を伝えるために鳴いたりといったバリエーションが見られます。

後年になって、守山市金森町に現存する庭塚古墳にも「黄金の鶏が埋まっていて、元旦の夜明けに鳴く」という伝承があったことを知り、質問者のお二人もこのことをご存知だったのだと合点が行きました。庭塚古墳は多くの古墳が開発などによって消滅したにも関わらず、金鶏伝説によって破壊の難を免れたのかもしれませんが。

庭塚古墳とは裏腹に、全長50mを超える前方後円墳「こうじ山古墳」（堺市）は、御多分に漏れず消滅した古墳の一つです。昭和29年（1954）頃に一坪1円で売買され、墳丘土は建設資材として採掘し尽くされ、平地化後には一坪千円の宅地300坪が出来上がったという逸話があります。この古墳にも金鶏伝説や崇りの伝承があったのなら、今頃はニサンザイ古墳の陪塚として世界遺産百舌鳥古墳群を構成していたのかもしれませんが。（馬耳東風）